

北教

北海道算数数学教育会
小学校部会 札幌支部
平成11年12月17日発行
No. 99

支部大会を終えて

北海道算数数学教育会
札幌支部副支部長 西出 稔
(札幌市もみじ台南小学校長)

第31回北教教札幌支部研究大会が市内6会場に於いて盛会裏に終えることが出来ましたのは、支部研究部をはじめとする各部事務局員、さらに学年推進委員長を中心に授業者、発表者、各会員一人一人の結束のお陰と感謝しております。

支部大会が開かれる度、支部研究部に所属していた折、これまで、全道大会同様1会場で行っていた支部研究大会を、6会場に分散することを提案したことを思い出します。分散することにより、他学年の授業の様子が見えない、運営面で難しい事項が生ずる等多くの危惧の声が寄せられました。

しかし、学年部会を通年制とし、1年間取り組んできた研究の成果を、会員自らの授業において検証し、厳しい分析を加えるという研究部の考えが諸先輩の英断により、現在の形となり定着しました。各学年の授業の様子は、反省会の前段部分を使わせていただき、学年討議の骨子を短時間で印刷し、学年発表という形で全体交流を行いましたので、反省会はいつも2時間半を越える長丁場で会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

北教の会員は、「授業で勝負する」とか「子どもの育ちで語る」といった言葉と共に、多くの素晴らしい実践が生まれました。現在は、その実践をさらに上回る多くの実践が会員一人一人の学級でなされています。大会の授業をしたくても、順番待ちでなかなかやらせてもらえないという嬉しい声も聞こえてきます。

確かな理論と、日常の弛まぬ実践。その実践を持ち寄っての会員相互による、子供理解と授業力の高め合い。このことが、先達より札幌支部研究に脈々と流れる精神だと信じています。

さて、すでにご存じのように、「生きる力の育成」を目指し、学習指導要領の改訂が行われまし

たが、昨今の子供の様子を見ていると、単に「生きる力の育成」でいいのだろうか考えるのは私だけでしょうか。現在の子供たちには、「生きぬく力の育成」のほうが相応しいかと考えています。

生きる力と生きぬく力、大差がないように思いますが、自己表現力の育成や自らの問いの醸成を指向してきた北教教札幌支部の研究の流れからいくと、「生きる力の育成」より、さらに力強く生きる子の育成を目指す、「生きぬく力の育成」を授業の中で求めてきたのではないのでしょうか。

ともあれ生きる力の育成には、方法論として今体験的な学習と問題解決的な学習の重要性があげられています。

東京学芸大の児島先生は、体験的な学習は、子供の育ち方や生活の在り方と関わり、直観と呼ばれる感覚的認識、感性的認識を理屈に置き換え概念化し、それを実践や行動に結びつける学習。

問題解決的な学習は、教育と社会との関わりに強く依存し、知識伝達学習から知識獲得の学習に転換することである、と述べています。

これまでも言われてきた、「直観から論理へ」、「教えるから学び取るへ」の授業改善の大切さを説いています。

今回の北教教札幌支部大会の授業を、このような大きな視点から見直してみると、いずれの授業もこのことを十分考慮に入れた単元構成と授業展開が為されており、時代の先を行く研究がなされています。理論と実践、そして検証というサイクルで行われる学年研究から、北教教札幌支部の貴重な財産が実践事例集という形で書き替えられ、次の新たな実践の基となり、受け継がれることを願っております。